ハードディスクデジタルレコーダー　VDH-F1600 VDH-F900

ネットワーク接続による遠隔操作マニュアル

目次

＜本マニュアルでの表示マークについて＞

注意事項

参考事項

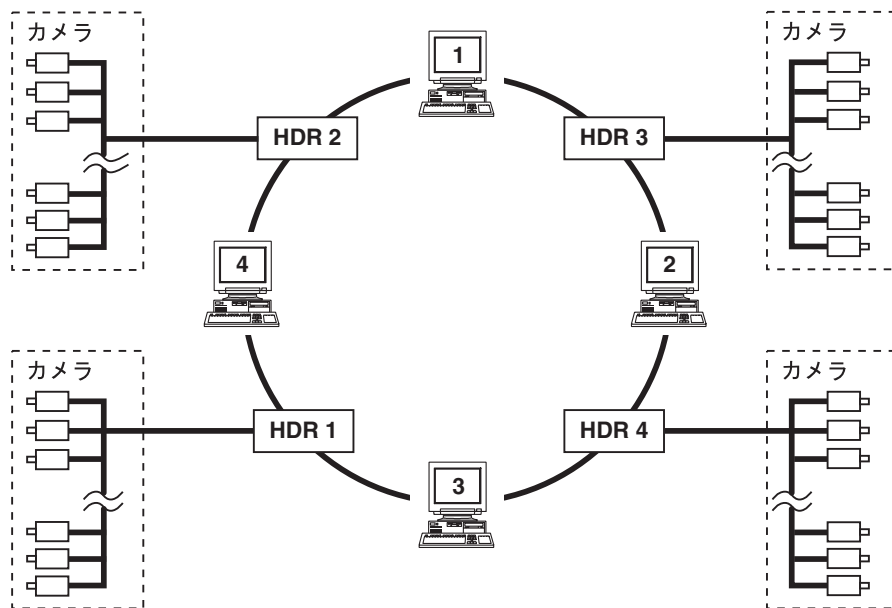
メインメニュー

サブメニュー

メニュー画面単位での設定値の保存

著作権について

ネットワーク制御機能について

本機はネットワーク接続により、 コンピュータ制御（遠隔操作）が可能となります。

(HDR: Hard Disk Digital Recorder)

■ネットワーク制御の基本仕様

1. メニュー設定や記録・再生などの操作をコンピュータ画面上から行うことができます。
   また、フレームスイッチャー機能により、本体に接続する複数のカメラのマルチ映像をコンピュータ画面上で監視することができます。
2. 1 台の HDR（Hard Disk Digital Recorder）に同時に接続できるコンピュータは、ユーザーレベル ID1 のユーザー 3 台と ID2 または ID3 のユーザーが 1 台の計 4 台までです。
3. 本体制御とコンピュータ制御は必要に応じて自由に切り換えることができます。
   なお、 ケーブルを接続しているだけの状態では、 本体側の操作に影響を与えません。
4. コンピュータ制御上のセキュリティ機能として、 ユーザーレベルに応じた 3 段階の認証（パスワード）チェックを設定することができます。

■ネットワーク設定

1. 本機をネットワーク接続でご使用になる場合は、 あらかじめ本体側で所定の「ネットワーク設定」を行う必要があります。 本体「取扱説明書」の『ネットワーク設定』の章をご参照ください。
2. 接続するコンピュータに対しても、 それぞれの OS（Operating System）に応じた TCP/IP を設定してください。

既存のネットワークを使用する場合は、 設定された IP アドレスが既に使用中のアドレスと重複しないよう、 あらかじめネットワーク管理者に確認を行ってください。

■ 音声の保存・再生について

- ネットワーク上のコンピューターで音声を保存・再生する場合は、音声の保存および再生用の“Active X”をそれぞれシステムに組み込んでおく必要があります。これら 2 種類の“ACTIVE X”を同時に組み込めるアプリケーション“Active Allinstall”を下記の弊社ホームページからダウンロードしてください。
- コンピュータ、コンパクトフラッシュ、CD-R　などに一旦ダウンロードした画像や音声を再生する場合は、付属の再生用アプリケーションソフト“DVR Viewer（Ver1.4 以降）”を弊社ホームページからダウンロードしてください（P35 参照）。
  弊社ホームページアドレス：http://www.sanyosecurity.com

■ 最低システム要件

OS：Windows98/98SE/Me/2000/XP
ブラウザ：インターネットエクスプローラー 5.0 以降
ビデオ：65,000 色、解像度 800 X 600 以上

■ 音声再生のための条件

DirectX とその互換サウンドカード
スピーカー

ネットワーク制御を行うには

■ネットワーク経由のコンピュータ側で制御するには

1　Web ブラウザの起動

対応ブラウザは Internet Explorer Ver.5.0 以上です。
OS は Windows 98、98SE、Me、2000、XP まで対応可能です。

> Internet Explore の使用中に Java Script の "Run Time Error" が表示された場合は、Internet Explore の設定を以下の手順で変更してください。
> 1. ［ツール］→［インターネットオプション］→［詳細設定］の順にメニューを選択する。
> 2. ［詳細手順］のチェックボックスを次にように設定する。
>
> ☐ スクリプト エラーごとに通知を表示する
> ☑ スクリプトのデバッグを使用しない

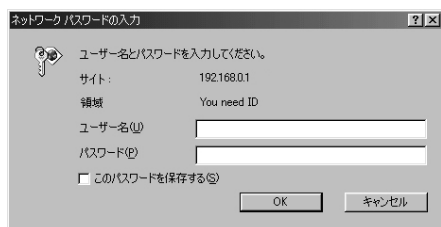
2　URL の入力

ブラウザのアドレスバーに『本機用 URL』を入力し、[Enter] キーを押します（URL には本体のネットワーク設定で設定した IP アドレスを入力します）。
初期値では 192.168.0.1 を入力してください。
（例："http://192.168.0.1/"）

> ポートを初期値の"80"以外に設定した場合には、IP アドレスの後に":"とポート番号を続けて入力してください。
> ポート番号を"81"に設定した場合の入力例
> http://192.168.0.1:81/

> コンピュータのハードディスクにWebブラウザがインストールされていない場合は、インストールしてください。

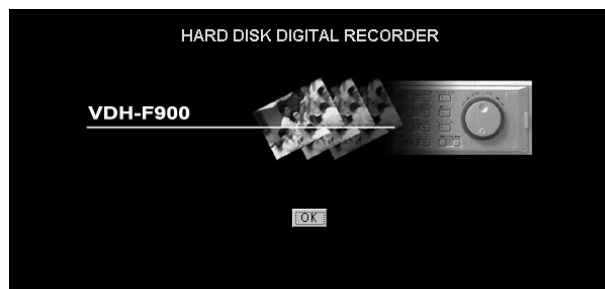
3　パスワード入力（認証チェック）

［ネットワークパスワードの入力］画面に［ユーザー名］と認証チェック用の［パスワード］を入力し、[OK] ボタンをクリックします。
パスワードを間違えるとパスワードの入力画面を再表示し、再入力を求めます。

(1)　パスワードは、設置環境に応じてあらかじめユーザーレベル別に設定しておいてください（P20 参照）。
(2)　入力された［ユーザー名］と［パスワード］を保存しておくと、次回以降は自動的に認証チェックがクリアされます。ただし、最初に接続したとき以外のパスワードは保存されない場合もあります。
(3)　HDR 本体に同時に接続できるコンピュータは 4 台までです（ただし、ユーザーレベル ID2 または ID3 のユーザーは 1 台のみに限定）。

> 4 台接続中に、上位のユーザーレベルで別のコンピュータから接続したときには、下位レベルのユーザーの内一番最後に接続されたユーザーが強制切断され、上位ユーザーが優先的に接続されます。

(4)　パスワード入力画面でパスワードの入力ミスが続いたときや［キャンセル］ボタンをクリックした場合は、"AUTHENTICATION ERROR"が表示されます。
(5)　コンピュータの制御中でも、操作パネルで権限外のボタンをクリックした場合はパスワード入力画面を表示し、必要なユーザーレベルの認証チェックを求めます。

4　操作画面への入り方

パスワードによる認証チェックをクリアすると、次の画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると操作画面が表示され、コンピュータ制御が可能になります。

重要

・ HDR本体にメニュー画面が表示されているときや再生系の操作を行っているときには接続できません。メニュー画面の解除、あるいは再生系の操作を停止してから再度接続を行ってください。
・ プロキシサーバ経由の場合は接続しないことがあります。その際はプロキシの設定を解除してください。

■本体側で制御するには

コンピュータの操作画面上の ボタンをクリックすると接続は解除され、制御は本体側に切り換わります。

・ ボタンをクリックせずにブラウザを終了した場合は、再接続までに 1 分程の時間が必要です。
・ 本体側から強制的に接続を解除する場合は、［終了／画面表示］ボタンを 2 秒以上押してください。強制解除後の 10 秒間は、コンピュータ側からの接続を受け付けません。
・ コンピュータとの通信が 1 分以上途絶えた場合は、自動的に接続が解除され本体側の制御に切り換わります。

■接続状態に関する表示

制御の切り換えやネットワークの接続状態については、随時画面にメッセージで表示されます。

本体側の表示

1. コンピュータ側の制御に切り換わったとき

Web ブラウザを起動し所定の手順を行うとコンピュータ側の操作に切り換わり、本体側にオンスクリーンで“NETWORK CONTROL”と表示されます。(オンスクリーン表示の設定が［切］の場合でも表示されます。)

HDR 本体のメニュー設定で、ネットワーク操作を「入(接続表示:無)」に設定している場合は“NETWORK CONTROL”のメッセージは表示されません。(ネットワークの操作にかかわらず、本体は常にライブ画像を表示します)。

2. 本体側の制御に切り換わったとき

コンピュータ側で ボタンをクリックすると接続が解除され、制御は本体側に切り換わりますが、本体側のオンスクリーン表示も“NETWORK CONTROL”から“DISCONNECTED”に変わります。
表示の切り換え後、本体側で何らかのボタン操作を行うと“DISCONNECTED”の表示は消えます。

3. 本体側から強制的に接続を解除するとき

本体側で［終了 / 画面表示］ボタンを 2 秒以上押すと、強制的に接続が解除され、“NETWORK CONTROL”の表示が消えます。
強制解除後の 10 秒間は、コンピュータ側からの接続を受け付けません。

コンピュータ側の表示

1. ネットワークが切断したとき

2. 接続不可の状態の HDR にアクセスしたとき

3. すでに他の 4台のコンピュータと接続している HDR にアクセスしたとき

※画面表示例は VDH-F900 モデルのものです。

操作パネルの機能と操作権限

再生用ボタン

① **前のイベント（ID2/3）**
直前のアラームイベントから再生します。

② **次のイベント（ID2/3）**
直後の次のアラームイベントから再生します。

③ **スピードダウン（ID2/3）**
再生のスピードを一段階落とします。

④ **スピードアップ（ID2/3）**
再生のスピードを一段階上げます。

⑤ **逆再生（ID2/3）**
記録画像を逆方向に再生します。

⑥ **終了（ID1/2/3）**
再生を停止し、ライブ映像を表示します。

⑦ **再生（ID2/3）**
記録画像を再生します。

⑧ **前の画像（ID2/3）**
静止中の再生画像が 1 コマ戻ります。

⑨ **静止（ID2/3）**
再生中の画像が静止します。

⑩ **次の画像（ID2/3）**
静止中の再生画像が 1 コマ進みます。

表示例は VDH-F900 モデル

記録用ボタン

⑪ **記録（ID3）**
通常記録を開始します。

⑫ **記録停止（ID3）**
通常記録を停止します。

⑬ **タイマー（ID3）**
記録停止中にクリックするとタイマーの待機状態になります。タイマーの待機状態でクリックするとタイマー記録を解除します。

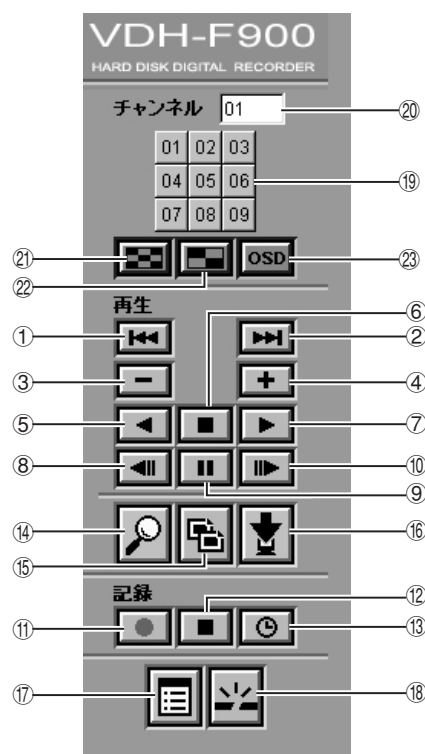
設定用ボタン

⑭ **サーチ（ID2/3）**
サーチ画面（設定画面）を表示します。

⑮ **コピー（ID2/3）**
コピー画面（設定画面）を表示します

⑯ **ダウンロード（ID2/3）**
ダウンロード画面（設定画面）を表示します。

⑰ **メニュー設定（ID3）**
メニュー画面（設定画面）を表示します。

⑱ **切断（ID1/2/3）**
ネットワーク接続を切断し、コンピュータ操作から本体操作に切り換えます。

チャンネルおよび画面選択用ボタン

⑲ **チャンネル選択（ID1/2/3）**
映像を一画面で表示させる際に、カメラのチャンネルを選択します。
- VDH-F900 モデル： 最大 9 チャンネル
- VDH-F1600 モデル： 最大 16 チャンネル

⑳ **チャンネル表示**
⑲ で選択したチャンネル番号が表示されます。

㉑ **マルチ表示（ID2/3）**
映像を 9 分割または 16 分割のマルチ画面で表示します。
- VDH-F900 モデル： 9 分割ボタン
- VDH-F1600 モデル： 16 分割ボタン

㉒ **4 画面表示（ID2/3）**
映像を 4 分割画面で表示します。

㉓ **OSD 表示位置変更（ID2/3）**
日時など、画面上の情報表示位置を変更します。
ID1 は OS D 表示はありません。

ユーザーレベル ID1 で「マルチ表示」または「 4 画面表示」をクリックした場合は、信号のあるチャンネルがランダムに表示されます。

※（　）内は操作権限のあるユーザーレベルを示しています（P20 参照）。

設定

本機の機能を効果的にご利用いただくために、 記録条件や設置環境などをあらかじめ設定しておく必要があります。これらの設定項目は“メインメニュー”と“サブメニュー”の２段階で構成され、表示されます。設定方法の詳細は、 次ページ以降の各メニュー別の設定手順をご参照ください。

■メニューの選択方法

1 操作パネルの [▤] ボタンをクリックし、［メインメニュー］画面を呼び出す

2 ［メインメニュー］画面で指定のメニューを選択しクリックすると、［サブメニュー］が表示される

3 ［サブメニュー］画面から各項目の設定を行う

4 メニュー画面を解除する場合は、操作パネルで再生モードの [■] ボタンをクリックすると、 メニュー画面を抜けライブ画面表示となる

・ 再生モードからは入れませんので停止ボタンをクリックして一旦ライブモードに戻してから[▤]ボタンをクリックしてください。
・ 設定を変更するにはID3のユーザーレベルで接続する必要があります。
・ 本体が記録中の場合には、 メニューの内容確認はできますが、 設定の変更はできません。
・ サブメニューから別のサブメニューに移るときは、まず [▤] ボタンをクリックして一旦メインメニューに戻ってください。

■メニューの構成

	メインメニュー	サブメニュー	参照ページ
記録条件	1. 時刻設定		8
	2. 外部時刻設定	・外部時刻設定	8
	3. プログラム記録設定		9
	4. 記録領域設定	・全容量 ・記録領域別の容量 ・記録再開許可（通常記録，アラーム記録，バックアップ）	10
	5. 記録設定	・通常記録領域 上書き記録 ・アラーム記録領域 上書き記録 ・ディスク残量警告	11
	6. 通常記録設定	・記録画質 ・音声記録 ・記録レート ・プログラム記録グループ	12 ～ 13
	7. タイマー設定		14
	8. 休日設定		15
	9. アラーム記録設定	・記録画質 ・音声記録 ・アラーム記録 （アラームインターリーブ、プログラム記録、記録レート、持続期間） ・プリアラーム記録（記録レート、持続期間） ・アラームトリガー	15 ～ 17
	10. アラーム持続時間		18
設置環境	11. データ表示設定	・日付 ・時刻 ・記録画質 ・音声 ・アラーム回数 ・アラームタイプ	18
	12. RS-232C/RS-485 設定	・コントロール ・データスピード ・ステータス ・アラーム ・アドレス	19
	13. ブザー設定	・アラーム入力 ・ディスク容量警告 ・ディスクエラー ・ロック警告 ・キーイン ・録画停止	19
	14. ネットワーク設定	・IPアドレス ・サブネットマスク ・ゲートウェイ ・ポート ・パスワード設定 ・ネットワークスピード	20
	15. ハードディスク設定	・ハードディスク容量 ・ミラーリング ・再生用ディスク	21
	16. 停電情報 / 使用時間	・停電情報 ・使用時間 ・ファームウェア情報	21

※ [網掛け] 部分は情報の表示のみ。

各メニュー別の設定手順

1. 時刻設定

本機に現在時刻を設定します。

1 メニューから「年／月／日　時／分」を選択する

曜日は日付に基づいて自動的に設定されます。

［セット］ボタンをクリックし、 時刻を設定する。

時刻が未設定の状態では記録モードは作動しません。この場合、記録ボタンやタイマーボタンをクリックすると次の警告メッセージを表示し、時刻設定を促します。
“時刻設定を行わないと記録できません”

2. 外部時刻設定

周辺機器の時刻調整の設定を行います。
各周辺機器を接続したときに各機器ごとの時刻が異なると、 同一の操作ができなくなります。 この設定を行うと、本体後面の時計合わせ端子で接続されている全ての機器の時刻を同じ時刻に設定します。

1 メニューから調整時刻を選択する

毎日、設定時刻になると信号を出力し、接続されている機器の時間調整を行います。

［保存］ボタンをクリックし、 調整時刻を設定する。

3. プログラム記録設定

本体に複数のカメラを接続して監視する場合は、各カメラごとに記録レートを自由に設定することができます。 また、 記録するカメラ映像の組み合わせや個々の記録レートは最大 4 パターンまでプログラム設定することが可能で、 タイマー設定や記録設定のメニューで適用するプログラムを指定できます。

1 メニュー（①）からプログラムの番号を指定する

P-1 ～ P-4

2 画面上に表示されている接続カメラ番号（VDH-F900 モデル : 1 ～ 9、 VDH-F1600 モデル : 1 ～ 16）のメニュー（②）から記録したいカメラを指定し、 それぞれの記録レートを設定する

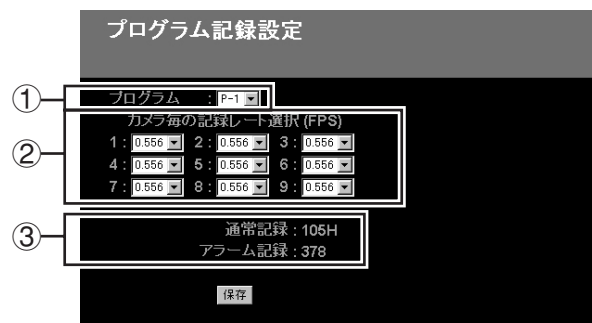
- 記録しない場合 :［OFF］を選択する。
- 記録する場合 : 記録レートを選択する。

初期設定　VDH-F900 モデル: 0.556 FPS
　　　　　VDH-F1600 モデル: 0.313 FPS

メニューに一覧表示される記録レートの値は接続チャンネル数に応じて変動します。なお、プログラム記録モードの記録レートの最大値は 30 FPS ですので、これを接続チャンネル数で割った値が設定値の上限となります。

3 ［保存］ボタンをクリックすると設定を完了する

設定を完了すると、設定条件に連動した通常記録可能時間とアラーム記録可能件数がそれぞれ参考表示されます（③）。

4 同様の手順で、最大 4 パターンのプログラムを設定することが可能

VDH-F900 モデルの画面例

VDH-F1600 モデルの画面例

4. 記録領域設定

本機のハードディスクは独立した 3 つの記録領域で構成されており、これらの各領域に対応する 5 つの記録モードを準備しています。
各記録領域別の容量は構成比で割り当てられます（設定単位は 1%単位）。

記録領域	記録モード		あらまし
通常記録領域	通常記録	手動	操作パネルの［●］ボタンの手動操作によって記録します。
	タイマー記録	自動	メニュー画面でのタイマー記録設定により、指定の時間帯に自動的に記録します。
アラーム記録領域	アラーム記録	自動	メニュー画面でのアラーム記録設定により、アラームを検知したときに自動的に記録します。
	プリアラーム記録	自動	メニュー画面でのプリアラーム記録設定により、アラームの入る直近映像を自動的に記録します。 アラーム記録の補完機能として使用します。
バックアップ領域	コピー	手動	操作パネルの［コピー］ボタンの手動操作により、他の記録領域から必要な記録をコピーし、保存します。

① 全容量表示

ハードディスクの全体容量を表示します。

> 2 台のハードディスクを搭載し、本体側のハードディスク設定でミラーリングを［入］に設定してある場合は、容量の小さい方のディスク容量を表示します。

② 各記録領域別の容量表示

本体側で設定された各記録領域の記録容量を、全体容量に対する構成比（%）で表示します。

> コンピュータ側からは記録領域の容量の設定および変更はできません。

③ 記録領域のリセット

上書き記録設定が［切］の状態では、各記録領域が満杯になると自動的に記録を停止します。この場合は、［記録再開許可］のボタンをクリックするとそれまでの記録が消去され、各領域の先頭から記録を再開します。

> 通常記録領域およびアラーム記録領域については各領域の容量設定が 0% の場合および上書き記録設定が「入」の場合はリセット機能が必要ないため［記録再開許可］ボタンは画面に表示されません。

5. 記録設定

各記録領域の上書き対応や残量の警告基準を設定します。

通常記録領域 上書き記録 （初期設定：入）

通常記録領域が満杯になったときに、現在ハードディスクに記録されている映像に上書きして記録を継続するか、いったん記録を停止させるかを設定します。

1 メニューから［入 / 切］を選択する

- 入：通常記録領域が満杯になると、自動的に通常記録領域の最初から映像の上書きを開始する。
- 切：通常記録領域が満杯になると、記録を停止する。

アラーム記録領域 上書き記録 （初期設定：入）

アラーム記録領域が満杯になったときに、現在ハードディスクに記録されている映像に上書きして記録を継続するか、いったん記録を停止させるかを設定します。

1 メニューから［入 / 切］を選択する

- 入：アラーム記録領域が満杯になると、自動的にアラーム記録領域の最初から映像の上書きを開始する。
- 切：アラーム記録領域が満杯になると、記録を停止する。

記録設定
通常記録領域
上書き記録 ：入
アラーム記録領域
上書き記録 ：入
ディスク残量警告 ：** %
保存

ディスク残量警告

通常記録領域とアラーム記録領域の上書き記録設定が［切］の場合、残量が少なくなるとブザーで警告を鳴らすように設定できます（P19 参照）。ここでは、警告を作動させる残量基準値を設定します。

1 メニューから残量基準値を設定する

設定範囲：1% ～ 10%（1% 単位）

両領域とも上書き記録設定が［入］の場合は残量警告の必要がないため、「＊＊」が表示されディスク残量警告の基準値設定はできません。

［保存］ボタンをクリックすると画面上の各サブメニューの設定（または変更）が完了します。

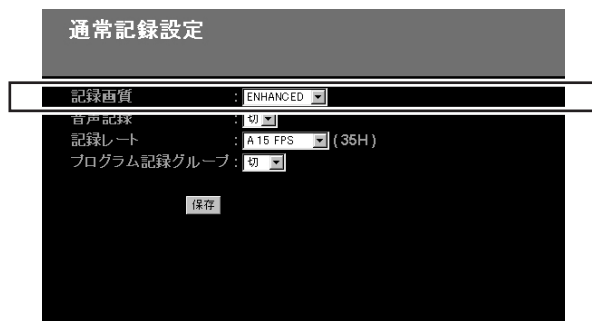
6. 通常記録設定

通常記録およびタイマー記録の記録条件を設定します。

記録画質 （初期設定：ENHANCED）

通常記録の画質を設定します。

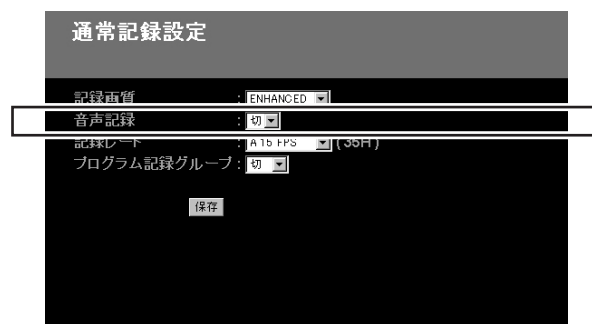
1 メニューから通常記録の画質を選択する

- BASIC（ラフ画質）
- NORMAL（標準画質）
- ENHANCED（準高画質）
- FINE（高画質）
- SUPER FINE（超高画質）

音声記録 （初期設定：切）

通常記録時に音声も同時に記録することができます。ただし、音声記録を行うと音声データが通常記録領域に記録されるため、記録可能時間が短くなります。

1 メニューから［入 / 切］を選択する

- 入: 音声を記録する。
- 切: 音声を記録しない。

> 音声記録は、記録レートが1～60 FPSの範囲のときに設定可能です。

記録レート（初期設定：A 15 FPS）

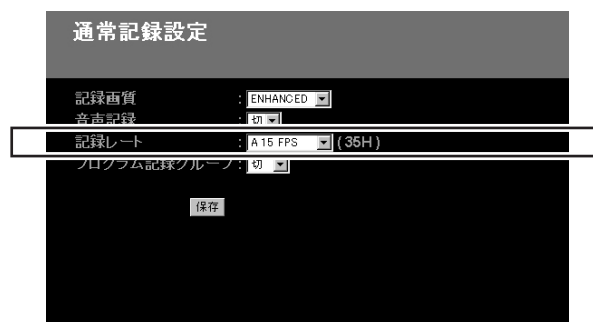
通常記録時の記録レートを設定します。

1 メニューから通常記録時の記録レートを選択する

A 60, A 30, A 20, A 15, A 10, A 7.5, A 6, A 5, A 4.286, A 3.75, A 3.333, A 3, A 2.727, A 2.308, A 2, A 1.667, A 1.429, A 1.25, A 1.111, A 1, A 0.5, 0.333, 0.25, 0.2, 0.1, 0.05, 0.033（単位：FPS）

画像の精度は“画質×記録レート”によって決まります。画質が高いほど、また記録レートが速いほど画像精度は高まりますが、画像の精度に比例して記録容量も多く消費しますので、その分記録時間が縮まります。必要に応じて設定値を調整してください。

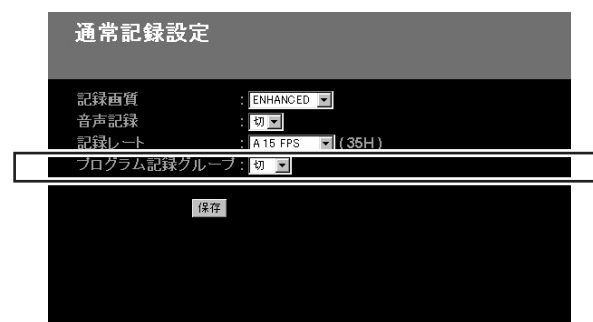
プリアラーム記録が［入］に設定されている場合、記録レートは A 15 FPS に制限されます。

タイマー記録時の［記録レート］はタイマー設定メニューで別途設定してください（P14 参照）。

プログラム記録グループ（初期設定：切）

通常記録で記録するカメラ映像を設定します。

1 メニューから通常記録で記録するカメラ映像を選択する（P9 参照）

切: プログラムを指定せずに、すべてのカメラ映像を記録する。
P-1: プログラム No1 を指定する。
P-2: プログラム No2 を指定する。
P-3: プログラム No3 を指定する。
P-4: プログラム No4 を指定する。

タイマー記録時の［プログラム記録グループ］はタイマー設定メニューで別途設定してください（P14 参照）。

［保存］ボタンをクリックすると画面上の各サブメニューの設定（または変更）を完了し、各設定条件に連動した記録可能時間が（ ）内に参考表示されます。

7. タイマー設定

タイマーの作動時間など、タイマー記録の記録条件を曜日別に設定します。

1 メニューから曜日別のタイマー記録条件を設定する

2 ［保存］ボタンをクリックするとタイマー設定（または変更）を完了する

① 曜日

タイマー記録を作動させる曜日を指定します。設定する行を変えれば、同じ曜日の異なる時間帯に、タイマー記録を複数回作動させることも可能です。

② 開始

タイマー記録の開始時間を入力します。

③ 終了

タイマー記録の終了時間を入力します。

④ プログラム（初期設定：切）

記録するカメラ映像のプログラムを指定します。(P9 参照)

⑤ FPS（初期設定：A 15 FPS）

記録レートを設定します。(P13 参照)

⑥ 入 / 切（初期設定：切）

タイマー記録を設定する場合は［入］にしてください。
タイマー記録を設定しない場合は［切］にしてください。

⑦ 毎日

この項目に開始および終了時間、映像プログラム、記録レートを入力して［入 / 切］を［入］にすると、毎日同じ時間帯にタイマー記録を作動させることができます。
なお、［毎日］で設定された条件は、各曜日別の設定条件よりも優先的に扱われます。

［タイマー設定］はタイマー記録条件の設定メニューです。実際に設定条件に基づくタイマー記録の実行を指示する場合は、操作パネルの［◷］ボタンをクリックしてください。（P6、P22 参照）
タイマー記録の待機モードに移行し、設定時間になると自動的にタイマー記録が作動します。
なお、タイマー記録の作動状態は、画面上に［タイマー待機］または［タイマー記録］のメッセージで表示されます。

タイマー設定の注意事項と応用

- タイマー予約時間が重なった場合は、設定開始時間の早い方を優先して記録します。
- 連続 24 時間以上のタイマー設定をしたい場合は、設定画面の下 2 行を使用します。
  1. ［OVER 24H］のボタンをクリックすると設定用フォーマットに切り換わります。
  2. 上段に記録開始の曜日と時刻を設定します。
  3. 下段に記録終了の曜日、時刻および記録周期を設定します。
  4. 下段の［入 / 切］を［入］にすると 24 時間以上のタイマー記録が設定されます。

8. 休日設定

このメニューで特定の日を休日として設定すると、タイマー記録の日曜日と同じ動作をします。

祝日や会社の記念日など、日曜日に準じたセキュリティを行う場合に使用します。

1 メニューから休日扱いとする日を指定する（左側：月、右側：日）。

最大 20 日まで休日の設定が可能です。

2 ［保存］ボタンをクリックすると休日の設定（または変更）を完了する

「毎日」機能がいずれかの行で設定されている場合は、日曜日もその条件で記録されます。「毎日」設定は日曜日も含み、優先的に機能しますのでご注意ください。

9. アラーム記録設定

アラーム記録時の記録条件を設定します。

記録画質 （初期設定：ENHANCED）

アラーム記録の画質を設定します。

1 メニューからアラーム記録の画質を選択する

- BASIC（ラフ画質）
- NORMAL（標準画質）
- ENHANCED（準高画質）
- FINE（高画質）
- SUPER FINE（超高画質）

音声記録 （初期設定：切）

アラーム記録時に音声も同時に記録することができます。ただし、音声記録を行うと音声データがアラーム記録領域に記録されるため、記録可能時間が短くなります。

1 メニューから［入 / 切］を選択する

- 入：音声を記録する。
- 切：音声を記録しない。

音声記録は、記録レートが 1 ～ 60 FPS の範囲のときに設定可能です。

アラーム記録

アラーム記録を行うかどうか、またアラーム記録を行う場合はその作動パターンや記録条件を設定します。

1 ［アラーム記録］メニューからアラーム記録のモードを選択する（初期設定：切）

- 切:　アラーム記録を行わない。
- 入:　タイマー記録（タイマー設定）に関係なく、常時アラーム記録を行う。
- タイマー中アラーム:
  タイマー記録中のみアラーム記録を行う。
- タイマー外アラーム:
  タイマー記録以外のときのみアラーム記録を行う。
- タイマー中アラームのみ:
  タイマーで設定した時間帯にタイマー記録を行わずにアラーム記録のみを行う。

2 ［アラームインターリーブ］メニューからアラーム記録の方法を選択する（初期設定：ONLY）

- ONLY:　アラームが入ったカメラ映像のみを記録する。
- SW:　アラームが入ったカメラ映像とプログラム記録で指定された他のカメラ映像を交互に記録する。

3 ［プログラム記録］メニューからアラーム記録の対象となるカメラ映像をプログラム番号で指定する（P9 参照）

切:　プログラムを指定せずに、すべてのカメラ映像を記録対象とする。
P-1:　プログラム No1 を指定する。
P-2:　プログラム No2 を指定する。
P-3:　プログラム No3 を指定する。
P-4:　プログラム No4 を指定する。
（初期設定：切）

4 ［記録レート］メニューから記録レートを選択する

A 60, A 30, A 20, A 15, A 10, A 7.5, A 6, A 5, A 4.286, A 3.75, A 3.333, A 3, A 2.727, A 2.308, A 2, A 1.667, A 1.429, A 1.25, A 1.111, A 1, A 0.5, 0.333, 0.25, 0.2, 0.1, 0.05, 0.033（単位：FPS）
（初期設定：A 30 FPS）

5 ［持続期間］メニューからアラーム記録の持続期間を選択する

5 秒 , 10 秒 , 20 秒 , 40 秒 , 1 分 , 2 分 , 3 分 , 4 分 , 5 分 , 10 分 , 15 分 , CC, カメラ毎
（初期設定：5 秒）

アラーム記録の持続期間は各カメラごとにも設定可能です。［持続期間］のメニューから［カメラ毎］を選択すると、後述の［アラーム持続時間］設定メニュー（P18 参照）で設定された個別の持続期間に従って作動します。

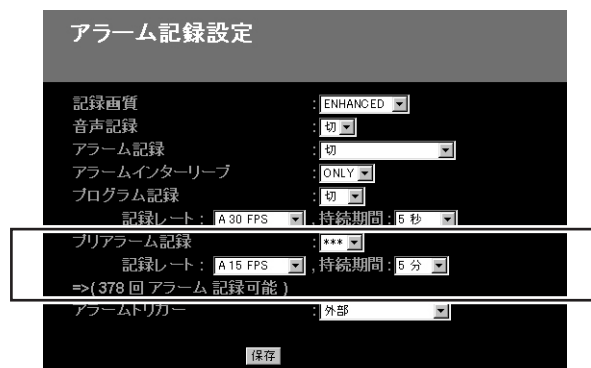
プリアラーム記録

プリアラーム記録を行うかどうか、またプリアラーム記録を行う場合はその記録条件を設定します。(P23 参照)

1 [プリアラーム記録] メニューから [入 / 切] を選択する。

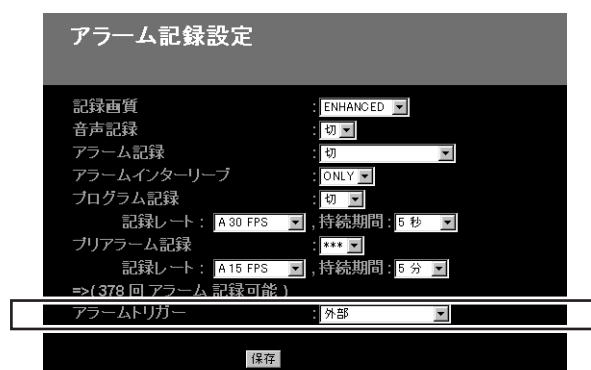
- 入: プリアラーム記録をする。
- 切: プリアラーム記録をしない。

> [アラーム記録]が[切]の場合は「**」が表示され設定できません。

2 [記録レート] メニューから記録レートを選択する

A 60, A 30, A 20, A 15, A 10, A 7.5, A 6, A 5, A 4.286, A 3.75, A 3.333, A 3, A 2.727, A 2.308, A 2, A 1.667, A 1.429, A 1.25, A 1.111, A 1 (単位 : FPS)
(初期設定 : A 15 FPS)

> A 60 FPS は 通常記録領域の容量設定が 0% の場合にのみ選択可能です。

3 [持続期間] メニューからプリアラーム記録の持続期間を選択する

2 秒 , 3 秒 , 5 秒 , 10 秒 , 20 秒 , 40 秒 , 1 分 , 2 分 , 3 分 , 4 分 , 5 分 , 10 分 , 15 分
(初期設定 : 5 分)

アラームトリガー (初期設定 : 外部)

アラーム記録の作動条件となるアラームトリガー(アラーム記録の起動信号)を設定します。

1 メニューからアラーム記録の起動信号を選択する

- 外部: 外部アラームが反応すると作動する。
- M センサー: モーションセンサーが反応すると作動する。
- 外部 AND M センサー: 外部アラームとモーションセンサーの両方が同時に反応すると作動する。
- 外部 OR M センサー: 外部アラームかモーションセンサーかのどちらか一方が反応すると作動する。

外部アラーム検知とは : ドアスイッチの開閉など、外部の検知情報が本体のアラーム入力端子へオンラインで入力されます。
モーションセンサー検知とは : モーションセンサーの設定により、モニター画面上で動きを検知します。

[保存] ボタンをクリックすると画面上の各サブメニューの設定(または変更)を完了し、設定された記録条件のもとで記録可能なアラーム件数が( )内に参考表示されます。

10. アラーム持続時間

アラーム記録の持続時間をカメラごとに個別に設定することができます。 本メニューで設定したカメラ別の持続期間は、アラーム記録の [持続期間] を [カメラ毎] に設定した場合に有効となります。(P16 参照)。

1 メニューからアラーム記録の持続時間をカメラごとに選択する

5 秒 , 10 秒 , 20 秒 , 40 秒 , 1 分 , 2 分 , 3 分 , 4 分 , 5 分 , 10 分 , 15 分 , CC(初期設定 : 5 秒)

2 [保存] ボタンをクリックすると各カメラの持続時間の設定(または変更)を完了する

VDH-F900 モデルの画面例

VDH-F1600 モデルの画面例

11. データ表示設定

本体側モニターへの表示情報をメニューから [入 / 切] で選択します。

本設定は本体に接続されているモニターへの表示情報を設定するものですので、コンピュータ側の画面には影響を与えません。

日付 (初期設定 : 入)

現在日付あるいは記録日付

時刻 (初期設定 : 入)

現在時刻あるいは記録時刻

記録画質 (初期設定 : 入)

記録中あるいは再生中の画像の画質

音声 (初期設定 : 入)

記録中あるいは再生中の音声記録表示

アラーム回数 (初期設定 : 入)

累計アラーム件数

表示件数は最大 9999 で、これを超えると 0 から再度カウントアップしていきます。

アラームタイプ (初期設定 : 入)

アラーム記録の種別

アラーム記録の場合 : [アラーム] を表示
プリアラーム記録の場合 : [プリ] を表示

[保存] ボタンをクリックすると画面上の各データ表示の設定(または変更)が完了します。

12. RS-232C/RS-485 設定

本体側のインターフェースに関する情報を表示します。

本体の設定を確認するだけで、設定の変更はできません。

コントロール

本機をコントロール操作する場合のインターフェースの種別を表示します。

- RS-232C: RS-232C でコントロールする場合。
- RS-485: RS-485 でコントロールする場合。

データスピード

RS-232C または RS-485 の通信速度を表示します。

- 2400/4800/9600/19200(bps)

ステータス

RS-485 通信の場合に、ステータス情報を送信するかどうかを表示します。

- 入: ステータス情報を送信する。
- 切: ステータス情報を送信しない。

アラーム

RS-485 通信の場合に、アラーム情報を送信するかどうかを表示します。

- 入：アラーム情報を送信する。
- 切：アラーム情報を送信しない。

アドレス

RS-485 を選択した場合のアドレスを表示します。

- 0-127 の範囲で設定されています。

13. ブザー設定

必要に応じてブザーによる警告を鳴らすことができます。 メニューから警告ブザーの [入 / 切] を選択します。

本設定により警告ブザーが鳴るのは本体側のみで、コンピュータ側では鳴りません。

アラーム入力 （初期設定：切）

アラームを検知したときにブザーで警告します。

ディスク容量警告 （初期設定：入）

ハードディスクの各記録領域の容量が残量基準値（P11 参照）に達したときにブザーで警告します。

ディスクエラー （初期設定：入）

ハードディスクに何らかの異常が発生したときにブザーで警告します。

ロック警告 （初期設定：入）

セキュリティーロックの状態で権限外の操作ボタンを押した場合にブザーで警告します。
0.5 秒程度の周期で 2 回鳴ります。

キーイン （初期設定：切）

操作ボタンを押したときに、ブザーによるキー操作音が鳴ります。

録画停止 （初期設定：切）

記録停止時にブザーで警告します。

［保存］ボタンをクリックすると画面上の各ブザーの設定（または変更）を完了します。

14. ネットワーク設定

ネットワーク設定は、 本機をネットワーク接続でご使用になる場合にあらかじめ本体側で設定されていますが、 本体側の設定値をコンピュータ側の操作で変更することもできます。
ただし、 ネットワーク関係の設定を変更すると、 一旦接続が解除され本体側の制御に切り換わりますので、 変更内容に応じてコンピュータ側のネットワーク設定（P3 参照）も再度設定し直してください。

IP アドレス（①）

本体側の IP アドレスを再設定することができます。

サブネットマスク（②）

本体側のサブネットマスクを再設定することができます。

ゲートウェイ（③）

本体側のゲートウェイを再設定することができます。

ポート（④）

本体側のポート番号を再設定することができます。
1 ～ 65535 の範囲で設定可能（初期設定：80）

ポートを初期値の“80”以外に設定した場合には、URL 入力の際、IP アドレスの後に“：”とポート番号を続けて入力してください。
ポート番号を“81”に設定した場合の URL 入力例
http://192.168.0.1:81/

パスワード設定（⑤）

各ユーザーレベルに対応するパスワードを再設定することができます（P4 参照）。

ユーザーレベル		1	2	3
ユーザー名		ID1	ID2	ID3
操作が可能なメニュー	ライブ画像の閲覧	○	○	○
	記録済みの画像の閲覧・サーチ		○	○
	記録の開始・停止、タイマー記録、本体の設定変更など			○
パスワード（初期値）		1111	2222	3333

パスワードは 4 ～ 8 桁の半角英数字を使用のこと。

ネットワークスピード（⑥）

ネットワークスピードを再設定することができます。
制限なし /64/128/256/512/1024 (kbps)
本体側でリセットすると初期設定（制限なし）に戻ります。

［保存］ボタンをクリックすると画面上の各ネットワーク設定（または変更）を完了します。

15. ハードディスク設定

ハードディスクに関する情報を表示します。 なお、 ハードディスクを増設し本体側でミラーリング記録を［入］に設定した場合は、 データの読み出し先のドライブを設定することができます。

再生用ディスク

本体側でミラーリング記録を［入］に設定した場合、どちらのドライブから記録データの読み出しを行うかをメニュー（③）から選択します。

ハードディスクを増設してこの設定を行うと、ハードディスクが初期化状態となり記録された映像が全て削除されます。 大切な映像が記録されている場合は、 設定前にコンピュータ等へのデータ保存を行ってください。

ミラーリングとは

ハードディスクを増設し、 同じ映像を 2 台のハードディスクに記録することをミラーリング記録といいます。ミラーリングを設定すると、万一映像の書き込み不良が発生した場合でも、正常な方のディスクから読み出しが可能となります。

1 メニューから[ディスク1またはディスク2]を選択する

・ ディスク 1 : ディスク 1 から読み出しを行う。
・ ディスク 2 : ディスク 2 から読み出しを行う。

2 ［保存］ボタンをクリックすると［再生用ディスク］の設定を完了

① **ハードディスク容量**
ハードディスクの全体容量を表示します。
ハードディスクを増設した場合は、ディスク別に表示します。

② **ミラーリング**
本体側でのミラーリング記録に関する設定を表示します。
・ **入**: ミラーリング記録を行う。
・ **切**: ミラーリング記録を行わない。

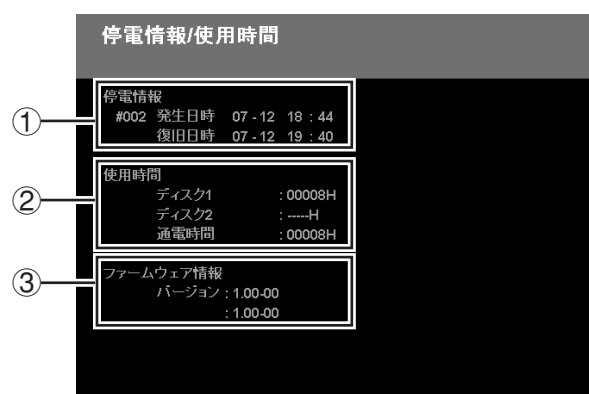
③ **再生用ディスク**

16. 停電情報 / 使用時間

停電の回数や本機の記録時間などを表示します。

① 停電情報
停電の回数、発生日時、復旧日時を表示します。

② 使用時間
本機の使用時間を表示します。
・ **ディスク 1** ：ディスク 1 の累計記録時間
・ **ディスク 2** ：ディスク 2 の累計記録時間
・ **通電時間**： 本機の累計通電時間

③ ファームウェア情報
ファームウェアのバージョンを表示します。

映像を記録する

本機は監視中の映像やアラームの映像を、 以下の指定した方法で内蔵のハードディスクに記録します。
記録を行う場合は、 設置環境に応じてあらかじめ必要なメニューの設定を行ってください。（P7 参照）

表示例は VDH-F900 モデル

■通常記録

手動操作により「通常記録領域」に監視中のライブ映像を記録します。

1 操作パネルの [●] ボタンをクリックすると、 通常記録を開始します。

2 操作パネルの [■] ボタンをクリックすると、 通常記録を停止します。

本体に複数のカメラを接続して監視している場合は、ライブ映像の表示画面数にかかわらず、通常記録設定で指定されたプログラム記録グループのカメラ映像が記録されます。（P13 参照）

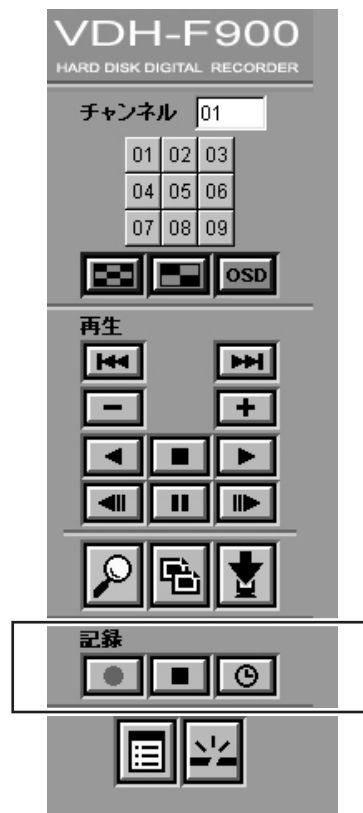
■タイマー記録

タイマー設定時間に従って、「通常記録領域」に監視映像を自動的に記録します。
ただし、 通常記録中はタイマー記録は作動しません。

1 タイマー設定のメニュー画面でタイマー記録の条件をあらかじめ設定します。（P14 参照）

2 操作パネルの [◷] ボタンをクリックするとタイマー記録の待機状態に入り、 設定時刻に合わせて自動的に記録を開始したり停止したりします。
タイマー記録の作動状態は、 画面上に「タイマー待機」または「タイマー記録」のメッセージで表示されます。

> アラーム記録の設定（P16 参照）で「タイマー中アラームのみ」を選択した場合は、[◷] ボタンによるタイマー記録の待機操作は不要です。

3 タイマー記録を解除する場合は、「タイマー待機」の状態で操作パネルの [◷] ボタンを再度クリックしてください。

■アラーム記録

アラーム入力端子やモーションセンサーがアラームを検知すると、「アラーム記録領域」にアラーム映像を自動的に記録します。
アラーム記録が作動すると、通常記録、タイマー記録およびプリアラーム記録は自動的に中断され、アラーム記録の終了とともに再開されます。

アラーム記録中にコンピュータの特定フォルダに保存したサウンドファイルを繰り返し再生してコンピュータ側にオリジナルの警告音を鳴らすことができます。
1. 警告音のサウンド（WAV）ファイルを作成する。
2. 次の指定ファイル名を付けてコンピュータに保存する。
“C:¥BUZZER¥BUZZER.WAV”
アラーム記録中に警告音を停止する場合は、操作パネルの再生停止ボタンをクリックします。

1 アラーム記録設定のメニュー画面でアラーム記録の条件をあらかじめ設定します。（P15 参照）

2 本機の操作や作動の状態にかかわらず、アラームを検知すると自動的にアラーム記録を開始します。

3 設定されているアラーム記録の持続期間が終了すると、自動的にアラーム記録を停止します。

■プリアラーム記録

プリアラーム記録の設定を行うと、通常記録と同じ映像をアラーム記録の補完映像として「アラーム記録領域」に常時記録します。あらかじめ設定された持続期間分の直近映像を上書きしながら保管しますので、アラーム記録の再生時にアラーム直前の映像も見ることができます。

1 アラーム記録設定の［プリアラーム記録］のメニュー画面でプリアラーム記録の条件をあらかじめ設定します。（P17 参照）

2 設定された持続期間分の最新映像を自動的に記録し、上書きによって更新していきます。

3 プリアラーム記録はアラーム記録が作動すると自動的に中断され、アラーム記録の終了とともに再開します。

映像を見る

監視中のライブ映像や記録された映像を、必要なときにいつでも自由に見ることができます。
ライブ映像や再生映像への切り換えや表示画面の変更などの操作は、タイマー記録やアラーム記録の動作には一切影響を与えません。

■ライブ映像を見るには

操作パネルの［■］ボタンをクリックして再生停止の状態にすると、監視中のライブ映像に切り換わります。

■記録映像を再生するには

再生映像を指定する方法と指定しない方法とがあります。

映像指定	再生のしかた
再生映像を指定しない場合	操作パネルの［▶］ボタンをクリックすると再生モード画面に切り換わり、通常記録領域とアラーム記録領域の記録映像を記録順に再生します。 ・記録映像を初めて再生する場合や本体側でリセットした場合は、記録内容を一番最初から再生します。 ・２回目以降の再生を行う場合は、前回の再生の終了時点から再生します。
再生映像を指定する場合	サーチ機能により、ハードディスクの各記録領域に記録された映像の中から必要な映像を検索することができます。 サーチモードで再生したい映像を検索し指定すると、自動的に再生モード画面に切り換わり指定された記録映像を再生します。詳しくは、次章「サーチ」をご参照ください。

下記の操作中は映像が乱れたり、一時的に映像が止まったように見えますが不良ではありません。
・通常記録領域とアラーム記録領域を連続して再生する場合、各記録領域の切り換わり時に画像が乱れる場合があります。
・アラーム記録中の再生や通常記録領域とアラーム記録領域の連続再生中に、通常再生や早送り・早戻し再生を行うと、映像が止まったように見える場合があります。

■表示画面数の指定方法（①）

本体に複数のカメラを接続している場合は、複数のカメラ映像をマルチ画面で見ることができます。モニターに表示する監視カメラのチャンネル番号や画面数を指定してください。

○ 1 画面表示で見るには

操作パネルの［チャンネル選択］ボタンをクリックし、見たいチャンネルを一つ指定してください。指定されたチャンネルの映像がフル画面で表示されます。
なお、指定したチャンネルは［チャンネル］ボックスに番号表示されます。

- VDH-F900 モデル： 9 チャンネル
- VDH-F1600 モデル： 16 チャンネル

○ 9 または 16 分割のマルチ画面で見るには

操作パネルの [▦] ボタンをクリックすると、監視中あるいは記録済みの全てのカメラ映像が 16 分割または 9 分割のマルチ画面で表示されます。16 チャンネルの場合は、ボタンをクリックするたびに 9 分割と 16 分割の画面が交互に切り換わります。

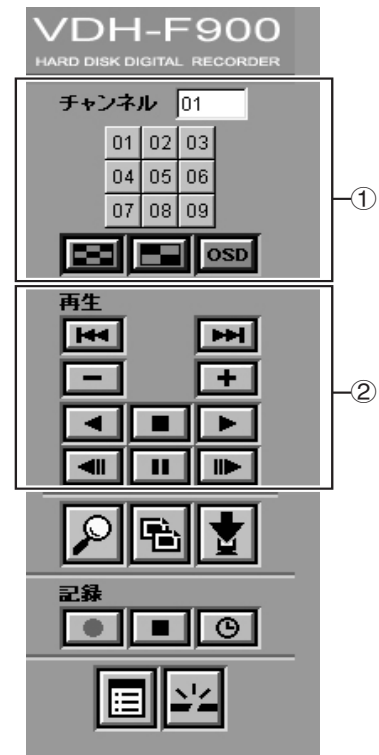
- VDH-F900 モデル： 9 分割画面
- VDH-F1600 モデル： 16 分割画面

○ 4 分割のマルチ画面で見るには

操作パネルの [▦] ボタンをクリックすると、監視中あるいは記録済みのカメラ映像が 4 分割のマルチ画面で表示されます。ボタンをクリックするたびにチャンネル番号 1 ～ 4、5 ～ 8、9 ～ 12、13 ～ 16 の各 4 分割画面が順番に切り換わります。

○ OSD の表示位置を変更するには

操作パネルの [OSD] ボタンをクリックすると、本体側モニターに表示される日時などの情報位置を変更することができます。

→ 右上 → 右下 → 非表示 →

表示例は VDH-F900 モデル

■再生モードの操作方法（②）

○ 再生するには

操作パネルの [▶] ボタンをクリックしてください。

○ 再生速度を調整するには

再生中に操作パネルの [+] または [−] ボタンをクリックすると、再生速度を段階的に早くしたり遅くしたり調整することができます。

○ 逆再生するには

操作パネルの [◀] ボタンをクリックしてください。
静止画の状態でも操作可能です。

○ 逆再生速度を調整するには

逆再生中に操作パネルの [+] または [−] ボタンをクリックすると、逆再生の速度を段階的に早くしたり遅くしたり調整することができます。

○ 静止画像するには

再生中に操作パネルの [❚❚] ボタンをクリックすると静止画像になります。
静止画像の状態で [❚❚] ボタンを再度クリックすると通常の再生モードに戻ります。

○ コマ送り（正逆）するには

静止中に操作パネルの [❚❚▶] ボタン（または [◀❚❚] ボタン）をクリックすると、静止画像を正方向（または逆方向）にコマ送りすることができます。

○ アラームスキップさせるには

再生中に操作パネルの [❙◀◀] ボタン（または [▶▶❙] ボタン）をクリックすると直前（または直後）のアラーム映像までスキップします。

■画像の調整と音声の再生方法

表示画面は次の通り画像の調整と音声の再生ができます。
メニューから各調整値を選択し［セット］ボタンをクリックしてください。

ライブモード画面

再生モード画面

① 表示速度（初期設定：1）

映像の表示速度を 5 段階で選択できます。
数字が大きくなると表示速度が早くなります。ただし、実際の更新速度はネットワークの通信速度によって制限されます。
音声が ON の場合、この設定は無効です。

② サイズ（初期設定：1）

映像サイズを 6 段階で設定できます。
数字が大きくなると表示画面が大きくなります。

1：320 × 240
2：400 × 300
3：640 × 480
4：800 × 600
5：1024 × 768
6：1280 × 960

③ 記録画質（初期設定：2）

画質のレベルを 3 段階で設定できます。

1：最低画質
2：中間画質
3：最高画質

④ AUDIO（初期設定：切）

画像と共に、音声も一緒に再生するかどうかを設定できます。

OFF：音声を再生しない
ON-5SEC 〜 30SEC：音声を再生する
（同時に音声遅延時間も設定されます。ネットワーク速度が遅い場合は、音声の途切れを防止するために音声遅延速度を長めに設定してください。）

・ 音声再生にはユーザーレベル ID2 以上の操作権限が必要です。操作権限が ID1 の場合は音声再生のメニューは表示されません。
・ 音声を再生する場合は、音声の保存および再生用の“ACTIVE X”をコンピュータに組み込み、音声記録を［ON］に設定してください（P3, P12 参照）。
・ 音声優先で再生されますので、環境によっては画像が表示されない場合もあります。

■画面上の表示項目

⑤ 映像モード

ライブ: ライブモードであることを表します。

再生: 再生モードであることを表します。

⑥ 時刻

ライブモード: 現在日時を表示します。

再生モード: 記録日時を表示します。

⑦ 通常記録モード

現在の通常記録の状態を表示します。

- 停止
- 記録中
- タイマー待機
- タイマー記録
- 残量なし（通常記録領域の残量がない状態）

⑧ アラーム記録モード

現在のアラーム記録の状態を表示します。

- 停止
- プリアラーム記録
- アラーム記録
- 残量なし（アラーム記録領域の残量がない状態）

⑨ 接続ユーザー

複数のユーザーが接続している場合は、ユーザーレベル別の接続状況を表示します。

（表示例）ID1:3 ID2:1 ID3:0

操作中のユーザー自身の所属 ID は赤で表示します。

⑩ 再生領域（再生モード画面のみ）

再生映像の記録領域を表示します。

- アラーム
- プリアラーム
- 通常
- バックアップ

⑪ 速度（再生モード画面のみ）

再生の速度および方向を表示します。

＜表示＞	＜再生方向＞	＜再生速度＞
再生	正方向	通常
一時停止	静止	静止
逆再生	逆方向	通常
キュー	正方向	早送り再生
レビュー	逆方向	早戻し再生
スロー	正方向	スロー再生
逆スロー	逆方向	スロー逆再生

サーチ

記録領域や画像検索のパターンから５つのサーチモードが用意されていますので、必要な映像を瞬時に検索し、 再生することができます。

■サーチの基本操作

1 ライブモード（再生停止の状態）から操作パネルの ボタンをクリックし、［サーチ］メニュー画面を呼び出す

再生モードで ボタンをクリックすると“正しくない操作です”のメッセージが表示されます。

2 ［サーチ］メニュー画面でサーチモードを選択しクリックする

指定したサーチモード画面に切り換わります。

3 サーチモード画面で画像検索を行う

検索手順は次ページ以降をご参照ください。

4 検索画像をプリビューまたはサムネイルで確認し、 画面をクリックする

再生モードに切り換わり、フル画像で再生を開始します。
静止画や早送りなど、操作方法は通常の再生の場合と全く同じです（P25 参照）。

■サーチメニュー

	サーチモード	検索対象の記録領域	あらまし
1	アラームサーチ	アラーム記録領域	アラームの映像をアラームイベント一覧リストから検索して再生します。
2	アラームサムネイルサーチ	アラーム記録領域	アラームの映像をサムネイル（縮小画像）で検索して再生します。
3	日時サーチ	通常記録領域 アラーム記録領域	記録されている映像を日付・時間で検索して再生します。
4	バックアップ領域サーチ	バックアップ領域	バックアップ領域に保存（コピー）した映像を一覧リストで検索して再生します。
5	モーション検出サーチ	通常記録領域 アラーム記録領域	記録映像にモーションセンサーを設定し、動きのあった画像を検索・再生します。

通常記録領域が０%になっている場合は、″アラームサーチ″″アラームサムネイルサーチ″″モーション検出サーチ″は選択できません。

各サーチモードの操作

1. アラームサーチ

アラーム記録領域に記録されている全てのアラームイベントがアラーム番号単位の一覧リストとして表示されます。

アラームの映像をアラーム番号から検索して再生します。

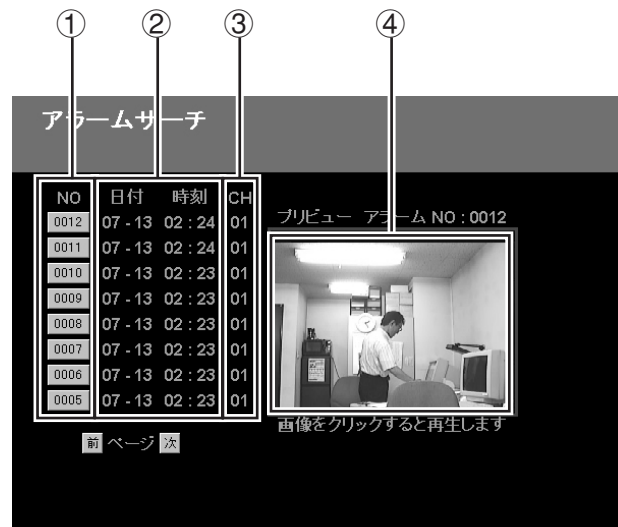
1 サーチメニューから「アラームサーチ」を選択する

アラームサーチ画面に、アラーム記録リストが、記録日時の新しいもの順に表示されます。

2 アラームイベントの一覧リストから再生したいアラーム番号を選択し、プリビューで確認する

- 一覧リストのアラーム番号をクリックすると、該当するアラーム映像がプリビュー表示されます。
- 一画面で表示できるアラームイベントは 8 件までです。［前］または［次］のボタンをクリックすると、直前または直後の8件のアラームイベントリストが表示されます。

3 再生したい映像をプリビューで確認できたら、プリビュー画面をクリックする

アラームの発生時点からフル画像で再生します。

① NO: アラーム番号
② 日付 / 時間: 記録日時
③ CH: チャンネル（カメラ番号）
④ プリビュー : アラーム映像のプリビュー表示

2. アラームサムネイルサーチ

アラーム記録領域に記録されている全てのアラーム映像がサムネイル（縮小画像）で表示されます。

アラームの映像をサムネイルから検索して再生します。

1 サーチメニューから「アラームサムネイルサーチ」を選択する

- アラームサムネイルサーチ画面にアラーム番号の付いた最新のアラーム映像が新しいもの順に表示されます。
- 1画面でサムネイル表示できるアラームイベントは9件までです。［前］または［次］のボタンをクリックすると、直前または直後の9件のサムネイル画面に切り換えることができます。

2 再生したいサムネイルをクリックする

アラームの発生時点からフル画像で再生します。

3. 日時サーチ

通常記録領域とアラーム記録領域の映像を、 記録日時を指定して再生することができます。

1 サーチメニューから「日時サーチ」を選択する

日時サーチ画面が表示されます。

2 ［チャンネル］ のメニューから再生したいチャンネル（カメラ番号）を指定する

フレームスイッチャー機能を利用せず、チャンネル数が 1 本の場合は ［--］ と表示されます。

3 ［サーチ］のメニューから再生したい映像の記録日時を指定する

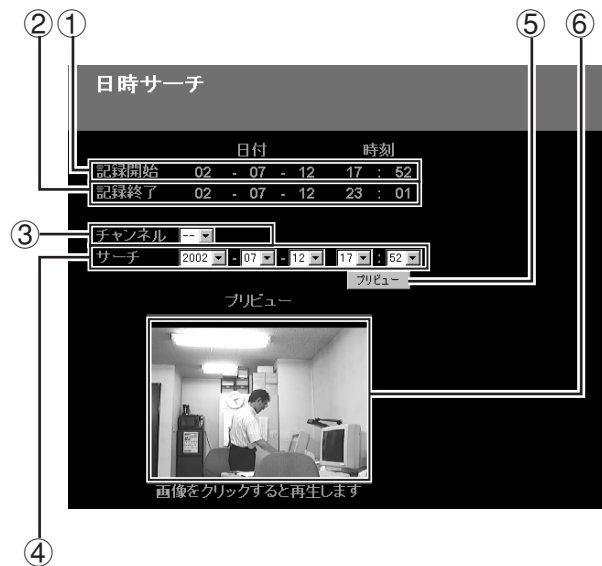
年／月／日／時／分

4 ［プリビュー］ ボタンをクリックし、 指定した映像をプリビューで確認する

検索後、指定した日時の映像を表示します。

完全に時刻が一致する映像がなければ、 指定した時間にもっとも近い映像を表示します。

5 再生したい映像をプリビューで確認できたら、プリビュー画面をクリックする

アラームの発生時点からフル画像で再生します。

① **記録開始**: 一番古い記録日時
② **記録終了**: 一番最新の記録日時
③ **チャンネル**: チャンネル（カメラ番号）
④ **サーチ**: 再生したい映像の記録日時
⑤ **［プリビュー］**: プリビューの指示ボタン
⑥ **プリビュー**: 指定日時の映像をプリビュー表示

4. バックアップ領域サーチ

バックアップ領域に保存（コピー）した映像を再生します。

1 サーチメニューから「バックアップ領域サーチ」を選択する

バックアップ領域サーチ画面に、保存映像の一覧リストがバックアップ領域への保存履歴の古いものから順に表示されます。

2 保存映像の一覧リストから再生したい映像番号を選択し、 プリビューで確認する

- 一覧リストの映像番号をクリックすると、該当する保存映像がプリビュー表示されます。
- 一画面で表示できる保存映像は 8 件までです。［前］ または ［次］ のボタンをクリックすると、直前または直後の 8 件の映像リストが表示されます。

3 再生したい映像をプリビューで確認できたら、プリビュー画面をクリックする

アラームの発生時点からフル画像で再生します。

① **NO**: 映像番号
② **日付 / 時間**: 記録日時
③ **CH** : チャンネル（カメラ番号）
④ **使用容量 – 全容量**: バックアップ領域の全容量
⑤ **使用容量 – 使用済** : バックアップ領域の使用済み容量
⑥ **プリビュー**: 保存映像をプリビュー表示

5. モーション検出サーチ

通常記録領域とアラーム記録領域に記録した映像にモーションセンサーを設定すると、侵入者などにより映像に変化があった映像のみを検出し、再生することができます。

1 サーチメニューから「モーション検出サーチ」を選択する

モーション検出サーチ画面が表示されます。

2 映像の検出対象となる記録領域を［サーチ領域］のメニューから指定する

- アラーム: アラーム記録領域の映像のみを検出対象とする。
- 通常: 通常記録領域の映像のみを検出対象とする。
- アラームと通常: アラーム記録領域と通常記録領域の両方の映像を検出対象とする。

3 映像の検出対象となるチャンネル（カメラ番号）を［チャンネル］メニューから指定する

フレームスイッチャー機能を利用せず、チャンネル数が1本の場合は［--］と表示されます。

4 ［セット］ボタンをクリックすると、検出対象となる映像の記録開始日時と記録終了日時が［開始］と［終了］のメニューにそれぞれ表示される映像の検出範囲を絞り込む場合は［開始］［終了］の日時をメニューから任意に調整し、［セット］ボタンをクリックして再設定する

検索結果はメッセージボックスに表示されます。

5 モーションセンサーの検知条件を設定する

- **モーションセンサーの位置**
  8（縦）×10（横）に分割されたモーションセンサー設定画面でセンサーを設定したい枠をクリックすると、センサー設定のマークが赤く表示されます。（センサーの設定された枠を再度クリックするとセンサーは解除されます）。
- **モーションセンサー感度**
  メニューから選択します。数値が低いほど高感度となります。

6 ［プリビュー］ボタンをクリックし、プリビューで確認する

検出対象となる映像の中からセンサーが動きを検知した画像を記録順に検出し、画面にプリビュー表示します。

7 再生したい映像を確認できたら、プリビュー画面をクリックする

アラームの発生時点からフル画像で再生します。

① **サーチ領域**
検出サーチの対象となる記録領域

② **チャンネル**
検出サーチの対象となるチャンネル（カメラ番号）

③ **開始／終了**
検出サーチの対象となる記録の開始および終了日時

④ **セット**
検出条件の設定

⑤ **メッセージボックス**
検出サーチの対象となる映像の検索結果
- 検索中：“検索中”
- 検出サーチの対象となる映像が存在する場合　：見つかりました”
- 検出サーチの対象となる映像が存在しない場合：“画像が見つかりませんでした”

⑥ **モーションセンサー設定**
モーションセンサーの設定用画面

⑦ **モーションセンサー感度**
モーションセンサーの検知感度の設定（切、1～10）

⑧ **プリビュー**
検出映像をプレビュー表示

記録映像と音声を保存する

記録した映像をハードディスクのバックアップ領域にコピーしたり、コンピュータなどにダウンロードしたりすることができます。
通常記録領域やアラーム記録領域に記録した映像のうち大切な映像を保存する場合に使用します。

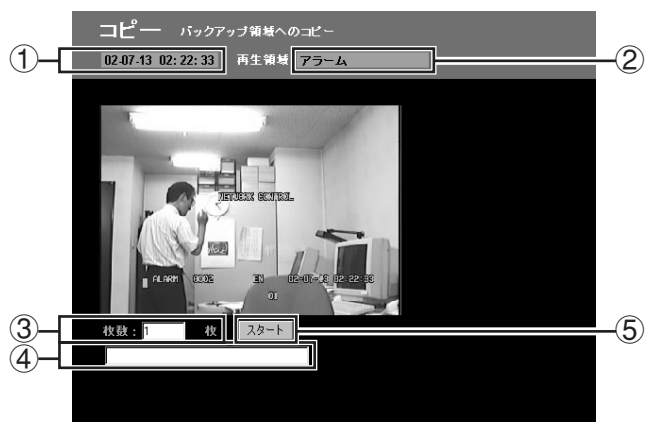
・ コピーする映像は、1 枚ずつの画像単位で保存されます。コピーする始点映像から必要画像枚数を設定することにより動画像となります。1 回のコピー操作で保存できる最大画像枚数は、バックアップ領域にコピーする場合は 10000 枚、コンピュータなどにダウンロードする場合は 1000 枚です。
・ HDR の記録動作を保護するため、使用環境に応じてネットワークビジーを検出し、ネットワークが強制切断される場合があります。一度に大量のデータを転送するような命令の場合（特に 100 枚以上の画像を保存する場合）はネットワークが強制切断されることがありますので、使用環境に合わせて画像枚数を制限してご利用ください。
・ バックアップ領域の画像が満杯になった場合は、一旦画像をコンパクトフラッシュ等にダウンロードした後、メインメニューの記録領域設定の［記録再開許可］ボタンでリセットしてください。（P10 参照）

■バックアップ領域へのコピー

1 通常記録領域またはアラーム記録領域の記録映像を再生し、コピーしたい映像の始点を静止画像にする。

2 静止画像の状態で、操作パネルの ボタンをクリックする
コピー画面を表示します。

3 ［枚数］の枠に画像枚数を入力する
始点から連続して何枚の画像をコピーするのかを枚数で入力します。
入力可能値：1 ～ 10000
無効な数値を入力した場合は、警告メッセージが表示されます。

4 ［スタート］ボタンをクリックする
バックアップ領域へのコピーを開始し、メッセージボックスにコピーの進行状態を表示します。
コピー中　：“バックアップ領域へのコピー中”
コピー終了：“コピー終了”

① 記録日時：再生中の映像の記録日時
② 再生領域:
再生中の映像が記録されている記録領域
・ 通常
・ アラーム
③ 枚数：保存画像数の設定
④ メッセージボックス：コピーの進行状態表示
⑤ スタート：コピーの指示ボタン

記録映像と音声を保存する

■PC へのダウンロード

あらかじめ Active X をダウンロードしておく必要があります。（P3, 12 参照）
記録した画像や音声をコンピュータなどにダウンロードすることができます。

① **記録日時**：再生中の映像の記録日時
② **再生領域**:
再生中の映像が記録されている記録領域
・ 通常
・ アラーム
・ バックアップ
③ **枚数**：保存画像数の設定
④ **メッセージボックス**：コピーの進行状態表示
⑤ **開始**：ダウンロードの指示ボタン
⑥ **音声**：音声ダウンロードの ON/OFF

1 ダウンロードしたい映像の始点を静止画像で表示させる

記録映像を再生し、ダウンロードしたい映像の始点を静止画像にします。

通常記録領域、アラーム記録領域およびバックアップ領域に記録されている全ての映像をダウンロードすることが可能です。ただし、ダウンロードを実行する場合はバックアップ領域からデータ送信されますので、通常記録領域とアラーム記録領域の映像をダウンロードする場合は、自動的に一旦バックアップ領域にコピーされます。

2 静止画像の状態で操作パネルの [ボタン] ボタンをクリックする

ダウンロード画面を表示します。

3 ［枚数］の枠に画像枚数を入力する

始点から連続して何枚の画像をダウンロードするのかを枚数で入力します。
入力可能値：1 ～ 1000
無効な数値を入力した場合は、警告メッセージが表示されます。

INTERNET EXPLORER では、1 ページの表示が 5 分以内という制限がありますので、5 分以内にダウンロードが完了するように、ダウンロードする枚数を設定してください。

4 ［音声］ボタンを設定する

画像と共に、音声も一緒にダウンロードする場合は［音声］スイッチを［入］に切り替えます。画像のみをダウンロードする場合は初期設定（OFF）のままにしておいてください。

5 ［開始］ボタンをクリックする

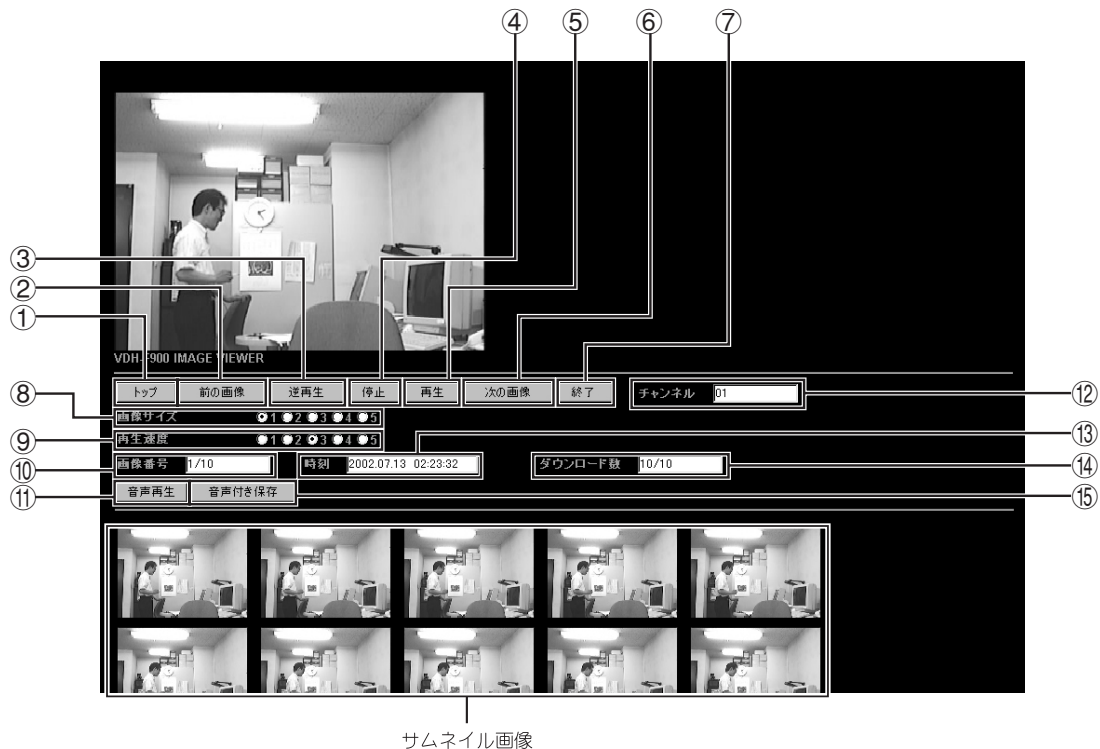
ダウンロードを開始し、メッセージボックスに“お待ち下さい！”を表示します。
全ての画像の取り込みが終了するとImage Viewer画面に切り替わり、データ保存の確認ダイアログを表示します。

6 確認ダイアログの［OK］ボタンをクリックし保存操作を行う

・ **画像のみを保存する場合**
Internet Explorer の「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」を選択し、「Web ページの保存」のダイアログボックスで保存場所とファイル名を指定の上［保存］をクリックします。Web ページが保存され、同時に全ての画像も保存されます。
・ **画像と音声を保存する場合**
［音声付き保存］ボタンをクリックし、「音声付き保存」のダイアログボックスで保存場所とファイル名を指定の上［保存］をクリックします。保存が終わると終了確認のダイアログボックスが表示されますので［OK］をクリックしてください。

・ INTERNET EXPLORER 5.0 以上をお使いください。それ以外のバージョンでは画像が保存されません。
・ 音声データは約 2 分までのダウンロード制限があるため、画像枚数が多い場合はダウンロードできない場合もあります。

※Image Viewer 画面

ダウンロードされた画像の確認と保存の操作を行います。

① トップ
1番目の画像を表示する。

② 前の画像
一つ前の画像を表示する。

③ 逆再生
逆方向に再生を行う。最初の画像まで行くと、最後の画像に戻って逆再生動作を繰り返します。

④ 停止
再生を停止する。

⑤ 再生
再生を行う。最後の画像まで行くと、最初の画像に戻って再生動作を繰り返します。

⑥ 次の画像
次の画像を表示する。

⑦ 終了
最後の画像を表示する。

⑧ 画像サイズ
表示画像サイズの設定。
1 400 × 300
2 640 × 480
3 800 × 600
4 1024 × 768
5 1280 × 960

⑨ 再生速度
再生スピード（周期）の設定。
1 1000msec
2 500msec
3 250msec
4 100msec
5 25msec
※上記の再生スピード（周期）の値はコンピュータの能力によって変動します。

⑩ 画像番号
再生中の画像番号を表示する。

⑪ 音声再生
画面上の再生操作で音声も同時に再生する。

⑫ チャンネル
ダウンロード中のチャンネル（カメラ番号）を表示する。

⑬ 時刻
再生中の画像の記録日時を表示する。

⑭ ダウンロード数
ダウンロード中の画像数を「ダウンロード中の画像数 / 全体画像数」で表示する。（なお入力された画像枚数分の記録画像がない場合は、全体画像数は記録画像数に制限される。）

⑮ 音声付き保存
画像と音声を同時に保存する。

⑪⑮ のボタンはダウンロード画面で［音声］を［入］に設定した場合のみ表示されます。

DVR Viewer

DVR Viewer は DVR の各シリーズに対応した再生専用アプリケーションソフトです。DVR からコンピュータのハードディスクやコンパクトフラッシュ、CD-R などの記録媒体に保存された画像や音声データを再生する際にご利用ください。
DVR Viewer は下記の弊社ホームページからダウンロードすることができます。
サイトアドレス：http://www.sanyosecurity.com

音声データを再生する場合はVer 1.4以降が必要です。なお、DVRから CD-Rに直接保存した記録データについては画像のみ再生可能です。

■動作環境

DVR Viewer をご利用いただける環境は以下の通りです。

- 対応 OS：Windows 98, 98SE, Me, 2000, XP
- 対応機種：上記の OS が稼動する PC/AT 互換 機
- 音声付きの画像を再生する場合は、システムにあらかじめ指定の "Active X Plug-in" を組み込んでおいてください（P3 参照）。

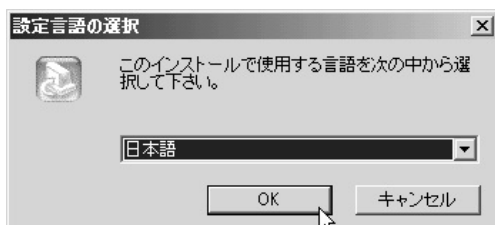
■DVR Viewer のインストール

DVR Viewer のご利用に際しては、 まず以下の手順でインストールを行ってください。

1 インストーラーの起動

ダウンロードした “Setup.exe” のアイコンをクリックするとインストーラーが起動します。

2 設定言語の選択

「設定言語の選択」画面で、本ソフトウェアの表示言語（日本語または英語）を選択し［OK］をクリックします。

3 インストールの開始

「DVR Viewer 用の InstallShield ウィザードへようこそ」画面で［次へ］をクリックするとインストール作業を開始します。

4 インストール先を指定する

「インストール先の選択」画面に表示されているインストール先のフォルダを確認し［次へ］をクリックします。インストール先を変更したい場合は［参照］をクリックしてフォルダを指定してください。

5 ファイルコピーの開始

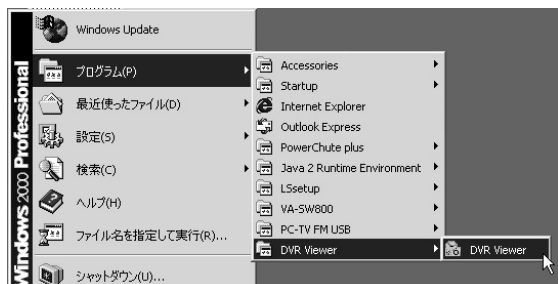
画面に表示されている設定内容を確認し［次へ］をクリックするとファイルのコピーを開始します。設定内容を変更する場合は［戻る］をクリックします。

6 インストールの終了

インストールが終了すると「Installshield ウィザードの完了」画面が表示されますので［完了］をクリックします。

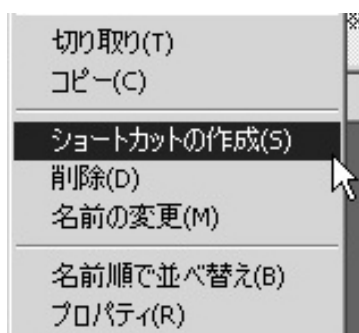
■DVR Viewer の起動と終了

● DVR Viewer の起動方法

スタートメニューから［プログラム］→［DVR Viewer］→［DVR Viewer］の順にたどるとDVR Viewerを起動することができます。

DVR Viewer が立ち上がると次の初期画面が表示されます。

デスクトップ上にショートカットアイコンを作成しておくと、アイコンをダブルクリックするだけで素早く起動することができます。
ショートカットアイコンを作成する場合は、スタートメニューの［DVR Viewer］をマウスの右ボタンでデスクトップ上の余白にドラッグ＆ドロップし、［ショートカットアイコンをここに作成］を選択してください。

● DVR Viewer の終了方法

画面右上の閉じるボタンをクリックするか、あるいは［ファイル］メニューの［終了］をクリックすると DVR Viewer を終了することができます。

■メニュー構成

DVR Viewer の基本メニューは画面左上のメニューバーとツールバーに集約されています。メニューを実行する場合は、それぞれのコマンドをクリックしてください。

● メニューバー

DVR Viewer の基本メニューです。クリックするとそれぞれのコマンドの詳細が一覧できます。

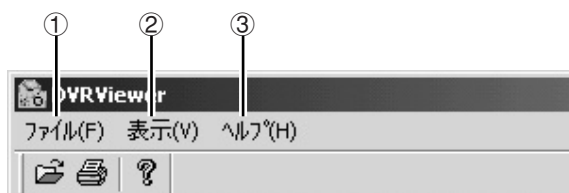
① ファイル（F）

開く（O）：ファイルを「開く」のダイアログボックスを表示します。
印刷（P）：指定した画像を印刷します。
タイトル入力（T）：印刷画像のタイトル入力用のダイアログボックスを表示します。
終了（X）：DVR Viewer を終了します。

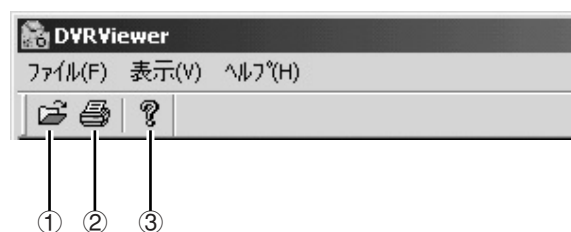
② 表示（V）

ツールバー（T）：ツールバーの表示・非表示を切り替えます。
ステータスバー（S）：画面下のステータスバーの表示・非表示を切り替えます。
分割（P）：画面下の境界線を上下に移動させます。
日付表示方式（D）：日付の表示方式を設定します。

③ ヘルプ（H）

現在作動中の DVR Viewer のバージョン情報を表示します。

● ツールバー

使用頻度の高いコマンドボタンが配置されています。

①：[ファイル (F)] メニューの [開く (O)] と同じコマンドです。
②：[ファイル (F)] メニューの [印刷 (P)] と同じコマンドです。
③：[ヘルプ (H)] と同じコマンドです。

■ファイルを開く

DVR Viewer が立ち上がったら、 以下の手順でまず再生したい画像ファイルを開きます。

1 ［ファイル］メニューの［開く（O)］）をクリックする

あるいは、ツールバーの をクリックしてください。

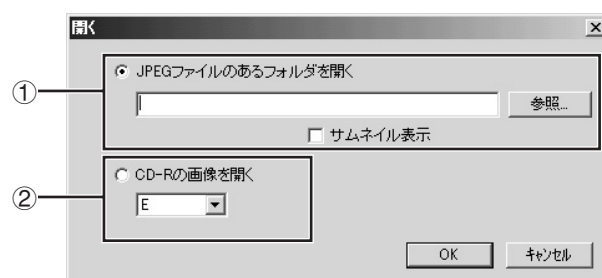
2 ドライブとフォルダを指定する

［開く（O）］のダイアログボックスが表示されますので、画像データを読み込む記録メディアの種類によって次の２つのメニューのいずれかをラジオボタンで選択します。

① JPEG ファイルのあるフォルダを開く

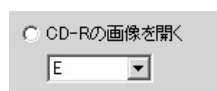
DVR からコンパクトフラッシュやネットワーク経由でコンピュータにダウンロードされた JPEG 画像を開く場合に選択します。

［参照 ...］をクリックするとフォルダツリーが一覧できますので、閲覧したいフォルダを指定して［OK］をクリックしてください。

サムネイル画像を表示させる場合は、［サムネイル表示］をオンにします。

・ 音声を再生する場合は、必ず"WAV"ファイルのあるフォルダを指定してください。
・ CD-R にダウンロードした画像を開く場合は、ここで CD ドライブを選択しても開くことはできません。次の「CD-R の画像を開く」を選択してください。

② CD-R の画像を開く

DVR から CD-R にダウンロードした画像を開く場合に選択します。ボックスには読み込み可能なドライブが次のように表示されますので、閲覧したいドライブを指定して［OK］をクリックしてください。

・ Windows 2000 / XP の場合：
「D：」などのドライブナンバーを表示

・ Windows 98 / 98SE / Me の場合：
ドライブ名を表示

■画像を見る

画像ファイルを開くと読み込んだ画像が表示されます。表示画面はメイン画面とサムネイル画面により構成され、スライドショーによるさまざまな再生操作が可能です。

1 メイン画面

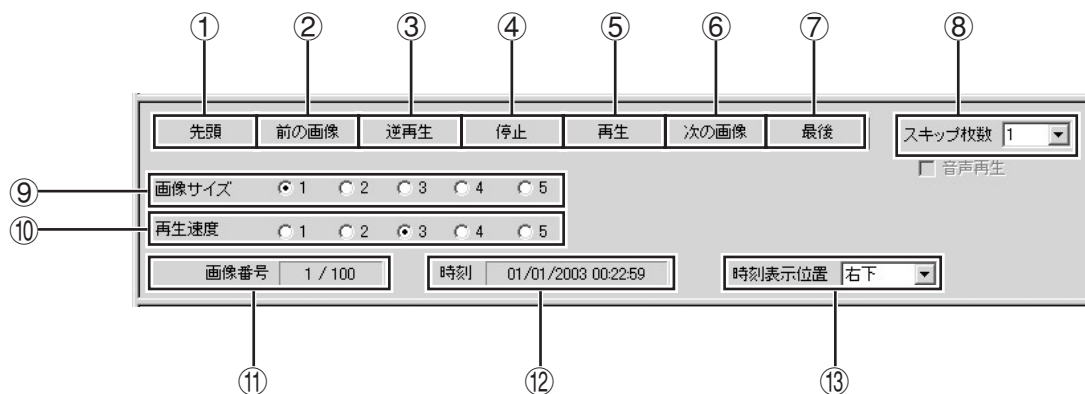
サムネイル画像をダブルクリックするとメイン画面に拡大表示されます。
ファイルを開いた時点では次の画像が表示されます。
- CD-R の画像データの場合：
  先頭画像
- CD-R 以外の画像データの場合：
  ファイル名の番号が最も小さい画像

2 サムネイル画面

ファイルに保存されている全画像がサムネイル（縮小画像）でファイル名の番号の昇順に一覧表示されます。ウインドウに収まらない画像はスクロールバーの操作で閲覧できます。

> CD-R の画像データの場合は、サムネイル画像は表示されません。

3 操作パネル

メイン画面の再生操作や画像調整を行います。

① ［先頭］ボタン

スライドショーの先頭に移動します。

② ［前の画像］ボタン

「スキップ枚数（⑧）」の設定に関係なく、スライドショーの1つ前の画像に移動します。

③ ［逆再生］ボタン

「スキップ枚数（⑧）」で指定された画像枚数をコマ飛ばししながら、スライドショーを逆再生します。

④ ［停止］ボタン

スライドショーを停止します。

⑤ ［再生］ボタン

「スキップ枚数（⑧）」で指定された画像枚数をコマ飛ばししながら、スライドショーで連続再生します。

⑥ ［次の画像］ボタン

「スキップ枚数（⑧）」の設定に関係なく、スライドショーの1つ後の画像に移動します。

⑦ ［最後］ボタン

スライドショーの最後に移動します。

⑧ スキップ枚数（初期設定：1）

スライドショーの再生・逆再生でコマ飛ばしさせる画像枚数を指定します。初期設定値（＝ 1）の状態では全ての画像が1枚ずつ表示されます。

設定値：1, 2, 3, 4, 5, 10, 20, 30, 40, 50, 100, 200

⑨ 画像サイズ（初期設定：1）

メイン画像の表示サイズを5段階で切り替えます。
大きな画像を表示するには、大きな数値を選択します。

⑩ 再生速度（初期設定：3）

スライドショーの再生速度を5段階で切り替えます。

再生速度	1	2	3	4	5
再生間隔	1秒	0.5秒	0.2秒	0.1秒	0.02秒

実際の再生速度はコンピュータの性能によって変動します。

⑪ 画像番号

「現在の画像番号／全体の画像枚数」を表示します。

⑫ 時刻

表示画像のタイムスタンプを表示します。

「年／月／日」の表示順はコンピュータの設定に準じます。

⑬ 時刻表示位置（初期設定：右下）

タイムスタンプの表示位置を指定します。

選択項目：右下、右上、左上、左下

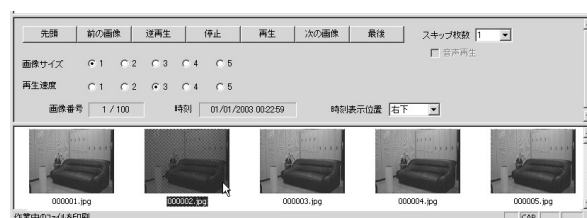
■画像を印刷する

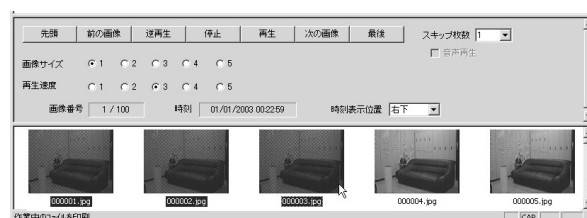
指定した画像を日付情報と共にフル画像で印刷することができます。

1 メイン画像を印刷するには

［ファイル］メニューの［印刷］またはツールバーの をクリックすると Windows の印刷用ダイアログボックスが表示されます。プリンタ名や印刷枚数などの必要事項を設定し［OK］をクリックすると、メイン画像がタイムスタンプを埋め込んだ状態で印刷されます。

2 サムネイル画像を印刷するには

指定のサムネイル画像をクリックしブルーの表示に変えてから、１の操作を行ってください。

3 一度に複数の画像を印刷するには

サムネイル画面で［Ctrl］キーを押しながらクリックすると複数の画像を選択することができます。指定画像が連続する場合は、［Ctrl］キーと［Shift］キーを同時に押しながら選択します。印刷画像を選択した後、１の操作を行うと１枚に１画像ずつ連続して印刷を行います。

4 タイトルを表示するには

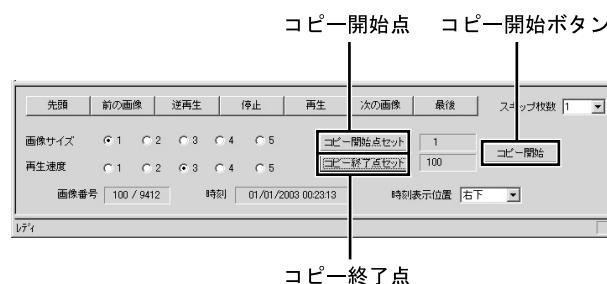
印刷画像にタイトルを表示する場合は［ファイル］メニューの［タイトル入力（T）］をクリックするとタイトル入力用のダイアログが表示されます。入力されたタイトルは、印刷時に画像の下に表示されます。

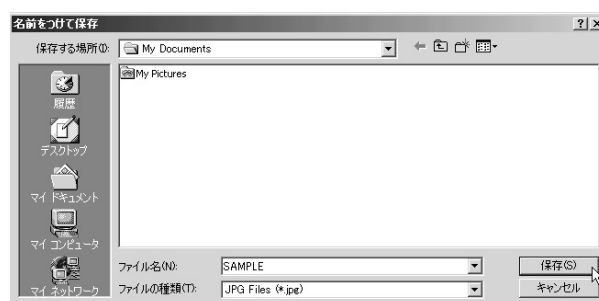
入力されたタイトルは 10 個まで保存され、一覧リストで選択することができます。

■画像の保存

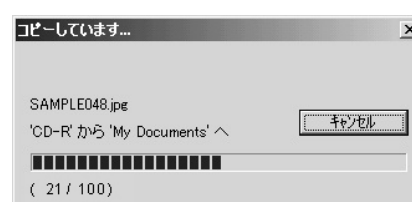
CD-R の画像データの場合は操作パネルに画像保存用のボタンが表示され、以下の手順で別の記録媒体に保存することができます。これにより、保存するフォルダの指定やフォルダの新規作成が可能で、ファイル名も自由に設定することができます。

1 保存画像の開始点と終了点を指定する

［コピー開始点］ボタンをクリックしてから再生操作で画像を選択し、再生停止の状態で［コピー開始点］ボタンを再度クリックすると保存画像の開始点を画像番号で指定できます。
コピー終了点も同様の操作で指定します。

2 ［コピー開始］ボタンをクリックする

［名前を付けて保存］のダイアログボックスが表示されます。

3 保存先とファイル名を指定し［保存］をクリックする

指定した画像が保存されます。
画像枚数とファイル名の指定により、各画像のファイル名は自動的に作成されます。

例 : 画像枚数 "100"、ファイル名 "SAMPLE" を指定した場合

修理相談窓口

相談受付時間　月曜日～土曜日(祝日および当社の休日を除く)
9:00～12:00、13:00～17:30

修理や部品に関するご相談は、お買い上げ販売店、
または下記電話番号にお問い合わせください。

三洋電機サービス株式会社

◆北海道地区	札　幌 (011) 831-9200
◆東北地区	仙　台 (022) 382-5616
◆関東地区	東　京 (03) 3372-5701
◆近畿・四国地区	大　阪 (06) 6993-2251
◆中国地区	広　島 (082) 293-6511
◆九州地区	福　岡 (092) 928-3414
◆沖縄地区	**沖縄三洋販売株式会社サービス部** 那　覇 (098) 944-4343

上記の修理相談窓口の名称、電話番号は変更することがありますのでご了承ください。

お客さまメモ

お買い上げの際に記入してください。お問い合わせのときに便利です。

お買い上げ年月日	年　　　月　　　日
お買い上げ店名	
電　話　番　号	(　　　)　　　ー

三洋マルチメディアセールス株式会社

ビジネス東日本営業部
CCTV東日本営業所　〒113-8434 東京都文京区本郷3-10-15　電話　東京 (03) 5803-3545

ビジネス西日本営業部
CCTV西日本営業所　〒574-8534 大阪府大東市三洋町1-1　電話　大東 (072) 870-6136

三洋電機株式会社

マルチメディアカンパニー
記録メディア事業部　〒574-8534 大阪府大東市三洋町1-1　電話　大東 (072) 870-6277

この取扱説明書は、古紙配合率100%、白色度70%の再生紙を使用しています。

1AC6P1P2698--
L8HBA/JP, JP2, L8HBB/JP, JP2 (0403KP-CZ)